

＜書 評＞

Rosemarian Berni 他（著）（第2版）

大橋正洋・他（訳）

ナースのための行動療法

問題行動への援助

大井淑雄（自治医大）

心理学を少しばかりかじった者は、その応用に関心を持ちつつも、えてして自分自身がそれを治療面で活用することは至難の技と思っているものである。しかし、そのような懸念は、本書を読む限りにおいては感じられない。というのも、本書が著者らの長年の実践の結果書かれたものであり、ふんだんに実症例を取り入れている故であろう。また本書は、第2版であり、改訂にあたっては初版での読者からのフィードバ

ックをも参考にしている。

加えて、読者が学習効果を得られやすいように構成されているのも、心理学者でもある Fordyce 博士の心配りであろう。

心理学的専門用語は必要最少限に留められた印象であり、その用語についても、症例の中で折につけ説明しているので、心理学を全く学んだことのない者にとっても親しみやすい本でもある。取りあげられた症例は47例にも及び、臨床実践にあっても

心強いアドバイザーとなるであろう。しいて言えば、実習問題の解答を設ける場所にもう一工夫欲しい処である。

本書を読む場合、ただ一通り読むというのではなく症例の多くは、読者が患者の概要を読んだ後に、自ら行動変容プログラムを立て、後に、患者らの行ったものと比較検討するのも非常に有効な利用方法であろう。

書名が「ナースのため」とあるが、行動療法に関心をもつ、またその実践に関与するであろう全ての医療スタッフに、また保母・母親等にもお推めできる本である。

本書はまた、リハビリテーションにおけるチームワークの必要性、医の倫理の哲学等を改めて考え直させてくれるものである。

（A 5，頁252，1982，¥2,800，医学書院刊）